

2—海外邦人安全対策情報

1. 社会・治安情勢

2012年2月25日のハーディ新大統領の就任以降、イエメン軍はアル・カーイダ掃討作戦を本格化させました。6月17日、イエメン軍はアル・カーイダが本拠地としていたアビヤン州の各都市ジンジバル、ジャアール、シュクラを、また6月23日、シャブワ州アッザーンの奪還に成功しました。拠点都市を失ったアル・カーイダは周辺諸州に逃走しました。

各地に潜在するアル・カーイダ分子は、政府軍・治安部隊施設等への自爆攻撃、軍・治安当局者の殺害・誘拐などのテロ活動を依然として繰り返しており、外国人に対する誘拐・殺害の脅威も依然として残ったままです。

本年に入り、3月18日に国民対話会議が開幕したことに伴い、イエメン全土の警備体制が強化され、サヌア市内の治安状況はやや改善した一方、アル・カーイダはベダ州やアビヤン州等で政府軍と依然散発的なテロ活動・交戦を続けています。2012年における国軍及び治安部隊要員の殺害件数（内務省発表）は、首都サヌアで18件、ラヘジ州で15件、ハドラマウト州及びタイズ州で各々10件、ダーリア州で6件、アデン、ベダ及びアビヤン州等で7件でした。

また2012年にオートバイを使用した殺害件数（内務省発表）は全国で66件、国軍及び治安部隊要員を標的とした殺害事件の約95%がオートバイを使用したものであり、国軍及び治安部隊要員40名、一般市民4名が殺害されるとともに、21名の国軍及び治安部隊要員及び一般市民9名が負傷しました。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当国における一般犯罪発生統計については、2012（平成24）年版の統計資料が未発表のため、2011（平成23）年版イエメン政府発表の一般犯罪発生統計に基づき、当国における凶悪犯罪を含む一般犯罪の現状について以下の通りです。

2011（平成23）年中に発生した殺人事件発生件数は1393件（殺人未遂を除く）（前年比24%増）、強盗事件発生件数は471件（前年比7.5%減）、放火事件発生件数は254件（放火未遂を除く）（前年比15.1%減）、強姦事件発生件数は145件（強姦未遂を除く）（前年比27.5%減）、誘拐事件発生件数は220件（前年比35%増）、窃盗（住居等侵入）事件発生件数は2049件（前年比18.7%減）、窃盗（自動車盗）事件発生件数は1182件（前年比20.2%増）となっています。殺人、誘拐などの凶悪犯罪及び自動車盗の発生件数が激増しています。人口10万人当たり換算した一般事件発生率では強盗、放火、強姦事件は日本と同程度ですが、殺人事件については日本の約6倍、誘拐事件については日本の約8倍と、いずれも日本に比べて高い発生率となっています。一方、窃盗（住居等侵入）事件発生率は日本の約12分の1、自動車盗事件の発生

率は日本の約4分の1です。(警察庁刑事局刑事企画課発表、平成23年1月～12月分犯罪統計資料【確定値】に基づく)。また当国の特徴の一つとして、銃器が市民に広く浸透しており、これら銃器がイエメン人同士の争いに使用されるケースが多々存在することから十分な注意を要します。

2012年中は、ハーディ大統領が就任し、新政権下、政権移行プロセスが着手されましたが、アラビア半島のアル・カーイダによる治安当局に対する各種テロ・暗殺事件が続発したほか、一般犯罪に対する取り締まり能力にも限界が見られました。2013年に入り、イエメンの将来の方向性を決定づける国民対話会議が3月18日から開会し、それに伴い、治安当局による昨年以上の重層的な警備体制が敷かれていることもあり、一般犯罪発生件数は横ばいまたは減少傾向になるとみられますが、引き続き注意を要する治安状況です。

(3) 平成25年1月～3月中の邦人被害にかかる一般犯罪については確認されていません。但し、過去に邦人が巻き込まれた犯罪例としては、邦人に対して親しげに話しかけ、観光案内資料の購入を持ちかけ、後になって法外なガイド料を要求したり、当国の治安当局関係者であると装って近づき、一瞬の間を見て財物を窃取する等の事件及び女性に対する痴漢事件等が報告されています。以上の点から、個人旅行者の方は、親しげにすり寄ってくる現地人に注意すると共に、いわれのない金品の請求には断固とした態度をとって拒否する姿勢が重要です。また他の事例として、当地の比較的安価な価格のホテルに投宿した邦人旅行者が就寝中、突然何者かが同人居室に侵入し、所持品を窃取されるという事案も発生しています。部屋の出入口ドアの施錠等についても細心の注意をする必要があります。なお、平成25年4月20日現在、当地には渡航自粛・退避勧告が発令されていますので理由の如何を問わず、当地への渡航は自粛願います。

(4) 当地の交通事情については、車両最優先であり、2011(平成23)年中のイエメン政府発行の交通事故統計資料によれば、交通死亡事故による死者数は2152人(前年比27.3%減)であり、日本と比べて人口10万人あたり約2倍となっています(日本における2011(平成23)年中の交通事故死亡者数は4612人)。交通マナーはほぼ皆無であり、信号無視、速度超過、通行区分違反(逆走)、右左折時の方向指示器不使用等の交通違反は枚挙にいとまがありません。道路を通行する際には、細心の注意が必要です。

3. テロ・爆弾事件発生状況(平成25年1月～3月)

(1) 1月3日、サヌア市内において、当地仏大使車両の警備として内務省より派遣されている警察部隊の車両に対して、正体不明の武装集団が銃撃を行った。

(2) 1月7日、イップ州サッダ市において、現地GPC支部幹部が同人自宅前で正体不明の武装集団による銃撃を受ける事件が発生した。

(3) 1月8日、イップ州アティク市中心部において、治安機関幹部の車両に仕掛けられていた爆弾が爆発する事件が発生した。

(4) 1月9日、アデン州アシュ・シェーキ・アウスマン郡アルモクタール地区の主要道路で1台の車両が爆発した。

(5) 1月10日、アビヤン州マフフアド郡ディーカ地区において、現地の有力な部族長の一人がアデンから車両で帰宅するところをアンサール・アッシャリーアによる襲撃を受けて死亡した。

(6) 1月10日、正体不明の武装集団がマアレブ市内にある大統領宮殿を襲撃する事件が発生した。

(7) 1月10日、マアレブ州サルワーハ郡に敷設されている石油パイプラインが爆破される事態が発生した。

(8) 1月11日、ダーリア州キバル村において、正体不明の武装集団が国軍部隊第33機甲旅団に所属する車両に対して奇襲攻撃を加えたことにより、兵士2名が死亡した。

(9) 1月11日、タイズ州タイズ市において、武装集団が地方政府要人を襲撃し、同人は重傷。

(10) 1月12日、ダマール州アルダーレエ郡アルワエラ地区において、正体不明の被疑者が市議会議員の自宅に手榴弾を投げ込んだ。

(11) 1月13日、シャブワ州アタク市アルナセブ地区において、地元警察幹部の車両に即製爆弾が仕掛けられていた。

(12) 1月16日、ダマール州において、同州公安総局幹部が正体不明の武装集団による銃撃を受けて死亡した。

(13) 1月17日、イップ州ヤレム市、民間会社取締役宅の自宅前で即製爆弾が爆発した。

(14) 1月18日、タイズ州アクバナ郡アルナジェバ検問所において、治安パトロール車の下部に仕掛けられていた即製爆弾が発見され、治安部隊員によって不活化された。

(15) 1月18日深夜、シャブワ州においてジャルダーン郡からルドゥム郡にかけて敷設されている石油パイプラインが正体不明の武装集団によって攻撃され、爆破された。(16)

(16) 1月19日、シャブワ州ルドゥム郡において、正体不明の武装集団がアルノシャイマ地区の石油パイプラインを爆破・破壊した。

(17) 1月19日、ハドラマウト州サイユーン郡において、サイユーン病院の治安部隊員が正体不明の武装集団と交戦した。

(18) 1月19日、マアリブ州マアリブ郡において、武装集団がアルシャブワン地区の電力送電施設を爆破した。

(19) 1月19日、マアリブ州マアリブ郡ハムサ・セラア地区において、アル・カーイダ構成員らがMTNの電話送電施設を爆破した。

(20) 1月20日、タイズ市内ハウド地区にあるアシュバト・スーク（市場）において手榴弾が爆発し、一般市民3名が負傷した。

(21) 1月20日、ベーダ州ワルドラビ郡のアル・カーイダ構成員に使用されていた住

宅で数回の爆発が発生した。被疑者であるアル・カーイダ構成員複数名が死亡した。同居宅内にはいくつかの即製爆弾が保管されており、おそらくそれが爆発につながったものと思われる。

(22) 1月21日、アビヤン州ムディヤ郡の南部運動活動家の居宅に手榴弾が投げ込まれた。

(23) 1月22日、ラヘジ州アルハウタ郡アルハウサニ橋とアルザエダ地区の間付近において、正体不明の武装集団が乗車した車両が第201歩兵旅団司令官が乗車する車両めがけて銃撃した。

(24) 1月25日、ダマール州アルダール郡アルジャレーラ村とアルワエラ村の間付近で、機動隊(ナジダ)司令官が待ち伏せ攻撃により襲撃を受け、同司令官は難を逃れた。

(25) 1月23日、ベータ州の州都ベータ市内において、同州機動隊司令官の車両に仕掛けられていた爆弾が爆発し、同車両を運転していた兵士1名が死亡、同車両に乗車していた同司令官の子息を含む3名が負傷した。

(26) 1月25日深夜、マアレブ州サルワフ地区に敷設されている石油パイプラインが武装集団により爆破された。

(27) 1月27日、シャブワ州アッザーン郡の個人宅において、即製爆弾が発見され、治安部隊がこれを不活化した。

(28) 1月28日、ラヘジ州チュバン郡アルワット検問所において、バイクに乗車した正体不明の武装集団の襲撃を受け、同検問所長が負傷した。

(29) 1月28日、ベータ州ラダーウ市内に通じるアフラム地区で国軍部隊を標的とした車載仕掛け爆弾による自爆テロが発生し、複数の兵士が死傷した。

(30) 1月28日、ベータ州ラダーウ郡において、自爆テロ犯によるアフラム検問所への襲撃があり、兵士11人が死亡、その他兵士11人が負傷した。

(31) 1月28日、ベータ州ワルドラビ郡アルサレブ地区において、イエメン軍とアル・カーイダ構成員との交戦があり、兵士6人が死亡、アル・カーイダ側にも数名の死傷者が出た。

(32) 1月29日、ハドラマウト州ギール・バウズィール地区において、政治治安総局幹部がオートバイに乗った二人組の武装集団による銃撃を受けて殺害された。

(33) 1月29日、アル・カーイダは、ベータ州ラダーウ郡内の国軍部隊の拠点の2箇所自爆攻撃を実行し、これにより国軍部隊に複数の死傷者が発生した。

(34) 1月29日、ベータ州ラダーウ郡アルアラシュ地区の検問所において、アル・カーイダの自爆テロ犯による攻撃があったが、けが人はなかった。

(35) 1月29日、ベータ州ラダーウ郡ベータ市の中央治安部隊本部にアル・カーイダ構成員による攻撃があり、双方銃撃戦となった。

(36) 1月30日、タイズ州タイズ市、武装集団が警察署を襲撃し、双方銃撃戦となった。

(37) 2月1日、アビヤン州アフワル郡において、同郡東側検問所近くの土嚢内に仕掛けられた即製爆弾が発見され、治安要員により不活化された。

(38) 2月4日、ベータ州ワラド・ラビーウ郡ハマ・サラール地区に駐屯していた国軍部隊に対するアル・カーイダの奇襲攻撃により、兵士2名が死亡、3名が負傷した。

(39) 2月4日、サヌア州ニフム地区において、マアレブ州発電施設と首都サヌアを結ぶ送電施設が部族武装集団によって破壊されたため同発電施設からの送電が停止した。

(40) 2月7日、ハドラマウト州シャフル地区の警察署に対して約12名のアル・カーイダ戦闘員が襲撃を行い、当時、同警察署内にいた6名の警官を制圧して、署内にあった武器を強奪した。

(41) 2月8日、マアレブ州ワーディー・オベイダ地区に敷設されている石油パイプラインが武装集団によって爆破され、炎上した。

(42) 2月11日、アル・カーイダは、アビヤン州シュクラ市の制圧を目的としてジンジバル市に対して急襲攻撃を行った。アル・カーイダ戦闘員と現地市民委員会戦闘員（アル・カーイダ掃討作戦で国軍部隊に協力）との間で激しい衝突が発生した。

(43) 2月13日、マアレブ州アラク・アール・シャブワーン地区に敷設されている紅海岸ラス・アイサー石油輸出基地につながっているパイプラインが武装勢力によって爆破され、炎上した。

(44) 2月13日、サヌア市内カーア地区において、内務省テロ対策局補佐官がオートバイに乗った正体不明の武装集団による銃撃を受けて頭部に重傷を負い、意識不明のまま病院に搬送された。

(45) 2月14日、アビヤン州ジャアール市において、市民委員会（アル・カーイダ掃討作戦で国軍部隊に協力）メンバーによるセキュリティー・チェックポイントに近づいてきたアル・カーイダの自爆テロ犯を同委員会メンバーが察知して銃殺、残りのメンバー数名が現場から逃走する事件が発生した。

(46) 2月16日、サヌア市サバイーン地区長が車両でサヌア市内ハッダ郵便局近くを通過していたところ武装勢力による銃撃を受け、同行者1名が負傷し病院に搬送された。

(47) 2月20日、アデン市内において、南部運動最高評議会議長が暗殺未遂事件に遭遇した。同行者4名が負傷した。

(48) 2月20日、マアレブ州サルワーハ郡アンシュル地区に敷設されている石油パイプラインが部族武装集団によって爆破され、炎上した。

(49) 2月23日、ハドラマウト州シャハル市内中心部にある警察署で爆弾が爆発し、警官2名が負傷した。

(50) 2月23日、ハドラマウト州沿岸部のラウカブ地区において、中央治安部隊同州司令官が武装集団に襲撃される事件が発生した。

(51) 2月24日、ベータ州ズィー・ナーイム郡において、同郡公安局長がアル・カーイダメンバーであると思われる武装集団の襲撃を受けて殺害された。

- (52) 2月25日、タイズ市内において治安部隊と武装勢力との間で銃撃戦が発生し、治安部隊要員2名を含む3名が負傷した。
- (53) 2月27日、サヌア市内サヌア旧市街において来訪中のアイルランド国籍ジャーナリストがタクシー乗車中に発砲襲撃を受けたが、難を逃れた。
- (54) 3月4日午後、アビヤン州ラウダル市にある（国軍と協力してアル・カーイダ掃討に当たる）人民委員会拠点を狙った爆発物を積んだ車両を使った自爆テロにより、人民委員会兵士10人が死亡、17人が負傷した。
- (55) 3月9日、マアリブ州ダマシュカ地区において、石油パイプラインが再度爆破された。
- (56) 3月10日、マアリブ州ダマシュカ地区において送電線への攻撃があり、マアリブ発電所の稼働が停止した。
- (57) 3月10日深夜、アビヤン州シュクラ地区の軍拠点をアル・カーイダ分子約20名が襲撃した。
- (58) 3月11日、マアレブ発電所とサヌアを結ぶ送電線がマアリブ州ダマシュカ地区で攻撃を受け、マアリブ発電所は再度稼働停止となった。
- (59) 3月11日、アデン海軍基地司令の車両で爆発物が発見され、不発処理された。
- (60) 3月17日午前、サヌア市内大統領官邸前でバイクを使用した国会事務局会計課長に対する暗殺未遂事件があったが、同会計課長は難を逃れた。
- (61) 3月25日、サヌア市内タイズ通り沿いにある両替商の近くで爆弾が発見されたが治安部隊により起爆装置が解除された。
- (62) 3月25日、サヌア市内60メートル通りのアスル交差点（60メートル通りとズベイリー通りが交差する地点）において、国民対話参加メンバーの1人を狙った襲撃事件が発生し、同人が負傷、同人の同行者1名が死亡した。
- (63) 3月25日夜、サアダ州マナバ郡の部族長がサヌア市内マズバフ地区60メートル沿いにある「アリー・モフシン・アル＝アフマル」スーク近くの商店で買物をしようと車両から降りたところ、同車両に仕掛けてあった爆弾が爆発した。
- (64) 3月25日、ダーリア州ナキール・ラブダ地区に設置されているセキュリティー・チェックポイントを標的とした爆弾事件が発生し、同セキュリティー・チェックポイントの兵士数名が負傷した。
- (65) 3月26日、ハドラマウト州シャハル郡において、シャハル郡郡長の車両に仕掛けられていた爆弾が爆発し、同郡長が負傷した。
- (66) 3月26日、サヌア市内バグダッド通りにおいて、国際赤十字社の露国籍女性職員が銃撃され重傷を負った。
- (67) 3月27日、サヌア市内20メートル通りに設置されていた第一師団によるセキュリティー・チェックポイントにおいて、武装集団と第一師団要員との間で衝突が発生し、兵士1名が死亡、一般市民1名が負傷した。

(68) 3月31日、サヌア市内60メートル通り沿いにあるハーディー大統領自宅を警護する警備隊と同自宅近くのサニーナ地区にあるカート(覚醒作用のある嗜好品)市場の武装集団との間で衝突が発生、これにより同市場内のカート売人の一人が頭部に重傷を負う事件が発生した。

(69) 3月31日、ベータ州の州都ベータ市内において、交通警察署長を狙った仕掛け爆弾による暗殺未遂事件が発生し、同署長は無事であったものの、近隣住民の1名が巻き込まれて死亡した。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況(平成25年1月～3月)

(1) 2月上旬、当地サアダ州において蘭国籍人が部族集団によって誘拐される事件が発生した。経緯は不詳なるも数日後同人は負傷等なく解放された。

(2) 2月13日、サヌア市内アルジェリア通りとバグダッド通りの交差点付近において、徒歩で帰宅途中の国際赤十字委員会女性職員が、武装集団の襲撃を受けた。同女性職員は武装集団らの隙を突いて、被害場所直近の自宅に逃げ込んだ。

(3) 3月26日、サヌア市内バグダッド通りにおいて、車両で移動中の国際赤十字委員会女性職員が、武装集団の襲撃を受け負傷した。誘拐目的であったとの報道もある。

5. 対日感情

対日感情は総じて良好です。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

当地に現在日本企業は存在しません。